

クルーゲ・クラウディア（ライプチヒ大学）

テーマ： 日本人の子育て

動機：

家は4人家族です。7歳の娘と4歳の息子がいます。ドイツ人の主人も、私も自分の両親にかなり厳しく育てられたと言えるかもしれません。今、自分の子供に対して、前の世代より少しやさしくなったと思いますが、日本人の友達の子育てと比べると、やっぱりうちのほうが随分厳しいなあと感じてしまいます。

4歳の息子が通っている幼稚園に今年1月に日本の友人の3歳の娘が入りました。その女の子は1月までずっとお母さんと一緒でした。寝る時もお母さんと一緒に寝ました。とても元気で、可愛い女の子です。でも、幼稚園で、初めてお母さんから離れ、そして言葉の問題もありましたので、よく泣いていました。3月になってから、少し慣れてきたような気がします。

日本に住んでいる日本人の例もあります。子供ができてから、その子が家族の中心になって、家族全員の起きる時間も、食事の時間も、寝る時間も、子供のほうにあわせているようです。ドイツでも、赤ちゃんが生まれてから、家族の一日の過ごし方が変わりますが、それでも一人一人を尊重します。たとえば、小さい子供は長く寝なければならないという考え方から、遅くても午後7時までに寝なければなりません。夕方になると、両親の時間も大切にしますので、日本人の友人みたいに、夜遅く子供が眠くなった後でようやく子供を寝かせることは絶対にしません。

ですから、今まで見た例で判断すると、日本人は子供を甘やかして、少しわがままにしているようだと思っています。

ディスカッション：

インタビューの相手は本当に「自分の動機をぶつける人」だったので、大変面白い話しができました。相手は13歳の娘がある日本人の女の人でした。

彼女は大体半年前まで日本に住んでいました。今ドイツで日本語を教えています。仕事で忙しいので、彼女は娘を小さい時から自立するようにそだてました。自分で服を着させたり、お弁当を用意させたりしたそうです。彼女の育て方は近所の主婦たちの中でも例外だ

ったそうです。

それを聞いて、実はびっくりしました。もちろん、日本人の子育てはどこでも同じことだと思いませんでしたが、どこか似ているんじゃないかと考えていました。しかし、このお母さんの話を聞いてから、反省し始めました。

私の子育て、つまり「ドイツの子育て」のほうが厳しい、あるいは子供を自立させやすいとはっきり言えません。私のやり方がいわゆる「代表的な日本人のやり方」、つまり「子供をあまやかすこと」に近いこともあれば、それと大変異なっていることもあることに気が付きました。

例えば、私はよく、朝起きたばかりの子供に服を着せたり（まだ眠くて可愛そうと思うわけで）、小学生の娘の鞆をチェックしたり、娘がうちでお弁当を忘れた時に学校まで持って行ったりします。インタビューの相手の日本人のお母さんはそれをしないともしました。そうすると、子供は自立できないだろうと改めて考えさせられました。

日本人の友達と比べれば、私のほうが子供に対して厳しくて、自分の子供がすぐ自立できるように育てていると今まで信じていました。しかし、インタビューしてから、いろいろと考え直しました。

結論：

日本の子育てがこうだとは一般的に言えないと思います。その点で、日本とドイツを比べても、それぞれの違いをはっきりすることができません。ドイツにも、日本にもいろいろな異なっている教育方法があります。ドイツ人のやり方がいい、あるいは日本人のやり方が悪いとは言えません。

グループ・ディスカッションの時にも述べられた意見ですが、子育ての大切なポイントは、自分の育て方を子供に分らせることです。子供を厳しく育てても、優しく育てても、子供に愛されていることを感じさせることの他に、子供にそれぞれの主に叱った時の理由を分かりやすく説明しなければなりません。そうしないと、子供のほうが混乱し、自信を持つ子、あるいは自立する子にはならないでしょう。